

さとにきたら ええやん

監督・撮影:重江良樹 音楽:SHINGO★西成 プロデューサー・構成:大澤一生(「隣人」「フリーター・カーラの道品-石内都、繰るように」) 編集:辻井潔(「隣人」「イラク テグリスに浮かぶ平和」)
音響構成:渡辺文彦(「ルンパ」[妻の病 レビー小体型認知症]) 制作協力:神吉良輔(ふとっちょの木)、五十嵐美穂、上田昌宏、吉川諒 機材協力:ビジュアルアーツ専門学校大阪 特別協力:小谷忠典
助成:文部科学省文化芸術振興費補助金 企画:ガーラフィルム 宣伝・配給協力:ウッキー・プロダクション 製作・配給:ノンデライコ 2015 | 日本 | 100分 | カラー | 16:9 | 5.1ch | DCP

日雇い労働者の街・釜ヶ崎で38年間続く子どもたちの集い場「こどもの里」
人情が色濃く残る街の人々の奮闘を描く、涙と笑いあふれるドキュメンタリー!

福祉フェスタ2018 @唐木田



さとにきたら
ええやん。

10月21日(日)

《字幕入りの上映です》

午前の部10:30~

午後の部13:30~

会場:二幸産業・NSP健幸福祉プラザ5階視聴覚室(総合福祉センター内) 多摩市南野3-15-1
入場料:500円(中学生以下と障がい者無料) 定員:各50名(先着順) 予約不要/直接会場にどうぞ

いつでもおいでや。 子どもも大人も集まるみんなの“さと”



大阪市西成区釜ヶ崎。「日雇い労働者の街」と呼ばれてきたこの地で38年にわたり取り組みを続ける「こどもの里」。「さと」と呼ばれるこの場所は、障がいの有無や国籍の違いに関わらず、0歳からおおむね20歳までの子どもが無料で利用することができます。学校帰りに遊びに来る子、一時的に宿泊する子、様々な事情から親元を離れている子…そして親や大人たちも休息できる場として、それぞれの家庭の事情に寄り添いながら、地域の貴重な集い場として在り続けてきました。本作では「こどもの里」を舞台に、時に悩み、立ち止まりながらも全力で生きる子どもたちと、彼らに全力で向き合う職員や大人たちに密着。子どもたちの繊細な心の揺れ動きを丹念に見つめ、子どもも大人も抱える「しんどさ」と、関わり向き合いながらも立ち向かう姿を追いました。



わたしはあなたの味方やで! いま 現在、求められている“居場所”の原風景



「こどもの里」の取り組みを通して、画面いっぱいにあふれ出る子どもたちや、釜ヶ崎という街の魅力を捉えたのは、大阪在住の重江良樹監督。「こどもの里」に関心を抱き、関わり、取材を始めてから足かけ7年、いま、初監督作品として本作を完成させました。音楽は地元・釜ヶ崎が生んだヒップホップアーティスト、SHINGO★西成。ストレートで飾らないメッセージの中に、街で生きる人々への熱い思いが詰まったSHINGO★西成の楽曲が、生きることそのものを力強く肯定し、映画全体をあたたく包み込みます。めまぐるしく移り変わる現代社会のなかで、子どもたちを巡る環境も急激に変化している今、あらためて注目されている「こどもの里」の“取り組み”が、これから歩む私たちに問いかけるものとは――?

「こどもの里」とは?

1977年設立の「子どもの広場」を前身とし1980年に現在の場所で「こどもの里」を開設。以後、子どもたちの遊び場であると共に、各家庭のケースに応じた短中期的な宿泊機能、長期的な養育をおこなう里親としての機能を持つ。

こどもたちの 遊びと学び 生活の場です

誰でも利用できます。
こどもたちの遊びの場です。
お母さん お父さんの休息の場です。
学習の場です。
生活相談 何でも受け付けます。
教育相談 何でもできます。
いつでも宿泊できます。
緊急に子どもが一人ぼっちになったら…
親の暴力にあったら…
家がいやになったら…
親子で泊まる場所がなかったら…
土・日・祝もあいてます
利用料はいりません



福祉フェスタ2018 @唐木田 主催:多摩社会福祉士会

10月21日(日) 会場: 二幸産業・NSP健幸福祉プラザ5階視聴覚室
(多摩市総合福祉センター内) 多摩市南野3-15-1

午前の部:10時30分～(開場:10時10分) 午後の部:13時30分～(開場:13時10分)

入場料:500円(中学生以下、障がい者無料) 定員:午前・午後各50名(先着順)

予約不要。直接会場へどうぞ。《字幕入りの上映です》

上映終了後、15時15分～フリートーク&交流会を予定しています。